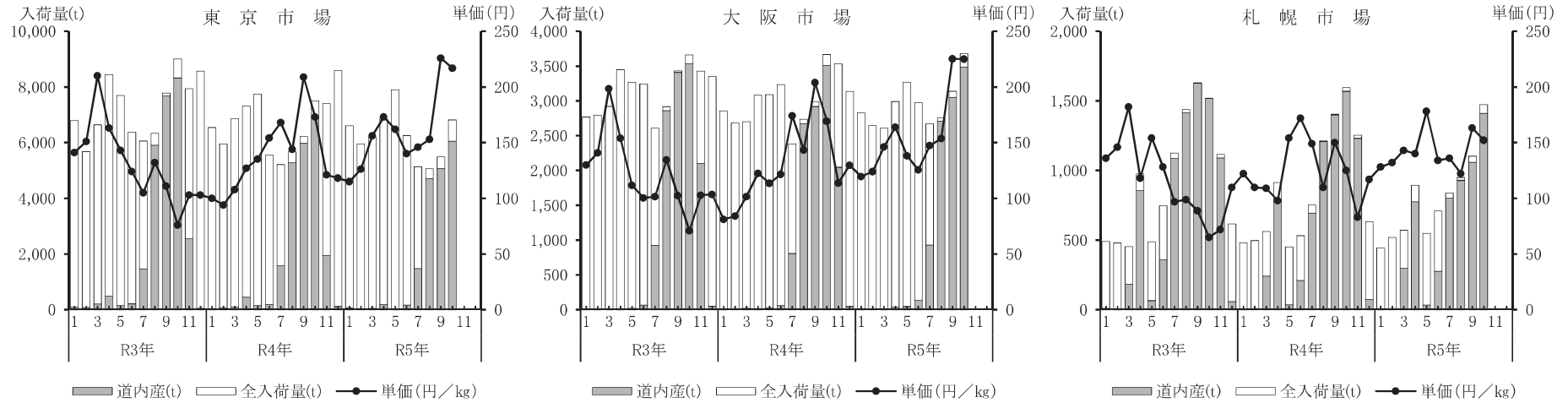


市場の入荷動向や単価推移などを掲載

にんじん

1. 東京・大阪・札幌市場月別入荷量・単価(中央卸売市場)



2. 東京・大阪・札幌市場5ヶ年(令和元年～令和5年)平均単価 (円/kg)

市場	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
東京市場	118	118	149	149	141	142	160	133	151	135	119	119
大阪市場	103	105	141	137	114	120	163	132	150	136	117	116
札幌市場	128	122	134	115	145	146	140	103	106	98	79	120
東京・札幌の差	△ 10	△ 4	15	34	△ 4	△ 4	20	30	45	37	40	△ 1
大阪・札幌の差	△ 25	△ 17	7	22	△ 31	△ 26	23	29	44	38	38	△ 4

※令和5年10月まで

3. 令和3年～令和5年 出荷先別月別平均単価 (ホクレン扱い、円/kg)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
5年	仙台						136	147	129	193	194	170	
	東京				111		150	141	135	198	201	162	
	名古屋						145	141	147	215	208	167	
	大阪				142		145	143	143	205	212	177	
	福岡							166	153	219	222	196	
平均	3年			132	99		123	108	120	101	71	88	
	4年				74		159	161	133	183	162	116	80
	5年				113		147	143	140	204	206	169	

※令和5年11月まで

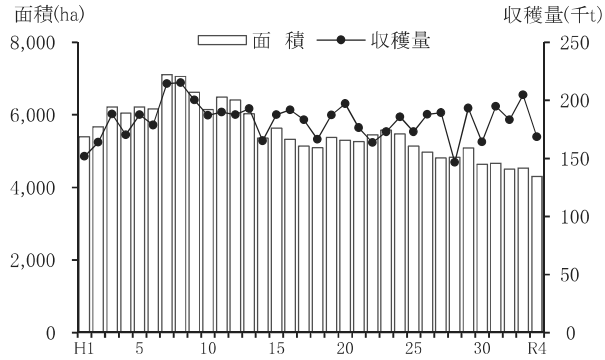
4. 令和3年～令和5年 札幌市中央卸売市場旬別単価 (円/kg)

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
3年	122	146	139	141	147	150	199	195	164	116	114	129	165	160	145	145	129	120	97	96	96	92	104	99	91	91	87	75	60	58	71	72	75	105	105	120	
4年	123	127	117	105	116	110	130	115	98	79	91	132	152	156	157	168	199	159	145	146	154	107	109	114	151	180	130	135	124	118	93	79	71	119	127	110	
5年	128	130	127	137	126	133	130	153	145	122	129	194	227	177	147	139	137	128	135	144	131	124	112	126	147	184	152	152	147	156	136	148	138				

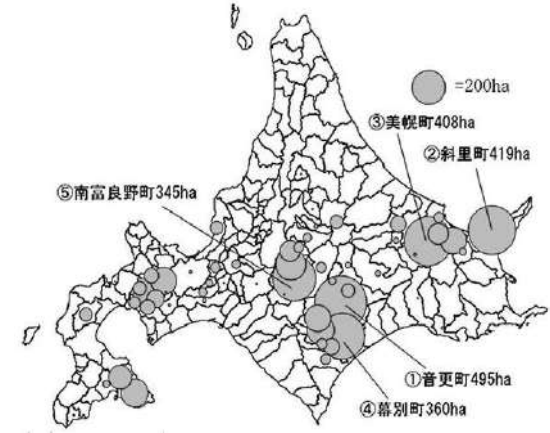
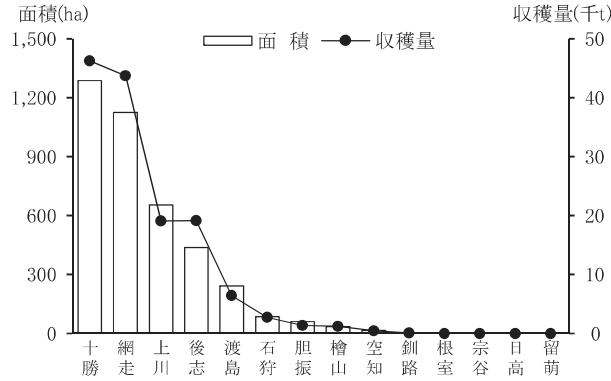
資料:農林水産省「青果物卸売市場調査(旬別結果)」

# 道内の作付・出荷動向を掲載

5. 全道年次別作付面積・収穫量  
(農林水産省「野菜生産出荷統計」)



6. 振興局別作付面積・収穫量(令和4年)  
(北海道農政部調べ、オホーツク総合振興局は「網走」と表記)



市町村別作付面積(令和4年)

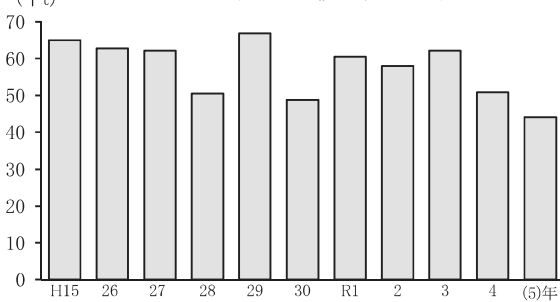
7. 北海道の占有率(令和4年)

(農林水産省「野菜生産出荷統計」より算出)

	全国	北海道	占有率(%)
面積(ha)	16,500	4,310	26.1
収穫量(t)	582,100	168,200	28.9

9. 道外出荷実績の推移

(ホクレン扱い、令和5年は11月まで)

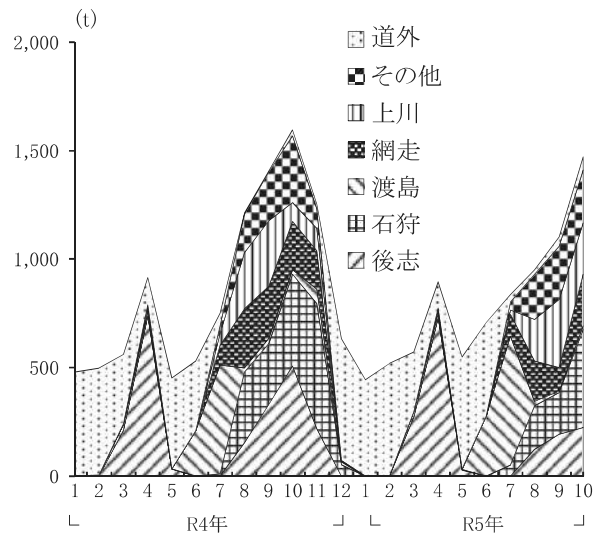


11. 市町村別作付面積・収穫量

令和4年		令和3年		
市町村名	作付面積(ha)	収穫量(t)	市町村名	作付面積(ha)
音更町	495	18,933	音更町	505
斜里町	419	14,944	幕別町	483
美幌町	408	21,803	斜里町	437
幕別町	360	13,632	美幌町	414
南富良野町	345	10,262	南富良野町	372
真狩村	190	8,565	真狩村	192
富良野市	172	6,042	富良野市	189
帯広市	140	4,200	小清水町	148
函館市	134	3,421	函館市	134
小清水町	129	3,800	京極町	134
芽室町	128	4,480	芽室町	125
京極町	123	4,773	七飯町	120
七飯町	100	2,765	帯広市	105
大空町	78	1,345	中富良野町	82
中富良野町	71	797	留寿都村	57
留寿都村	57	2,694	更別村	56
更別村	50	2,000	北見市	45
北見市	49	1,472	俱知安町	39
俱知安町	38	1,481	洞爺湖町	38
洞爺湖町	36	902	今金町	35
計	4,310	168,200	計	4,540

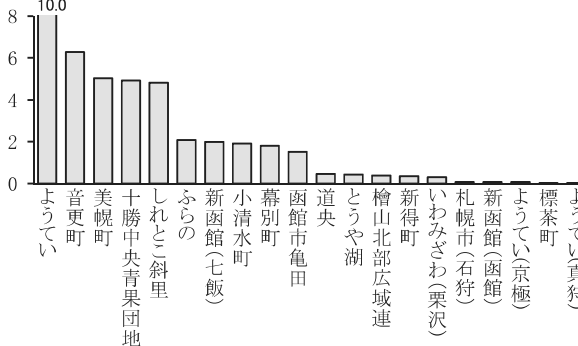
資料: 「計」は、農林水産省「野菜生産出荷統計」  
市町村数値は、北海道農政部農産振興課「主要野菜作付実態調査」

8. 札幌市中央卸売市場地域別入荷量



10. 令和5年度農協別道外出荷実績

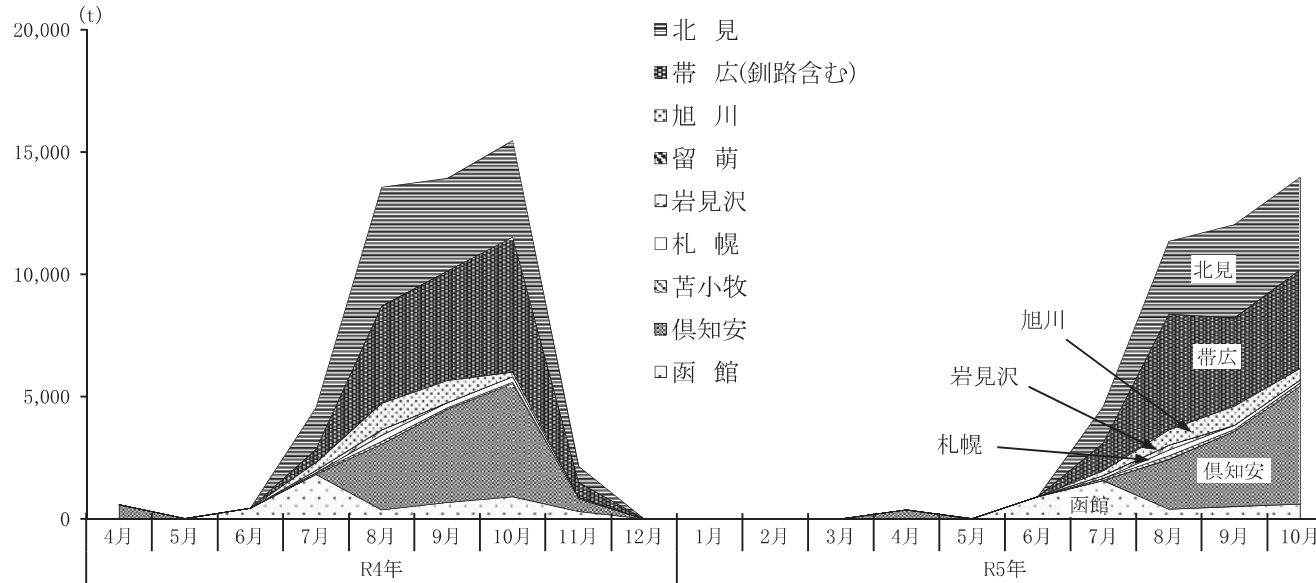
(ホクレン扱い、10月まで)



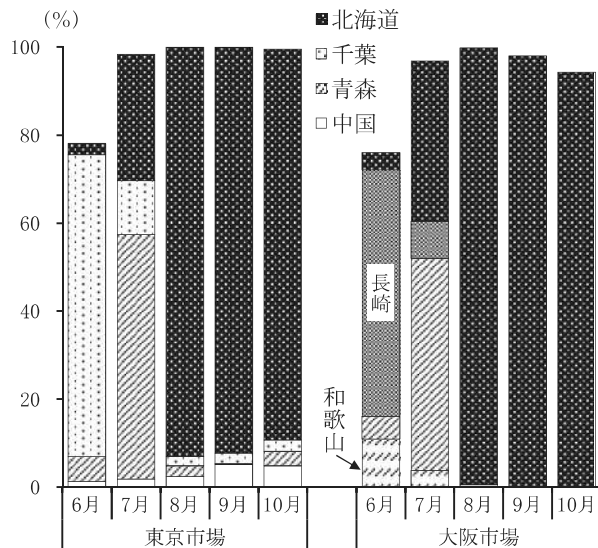
# 主産県比較や近年の動向などを掲載

## にんじん

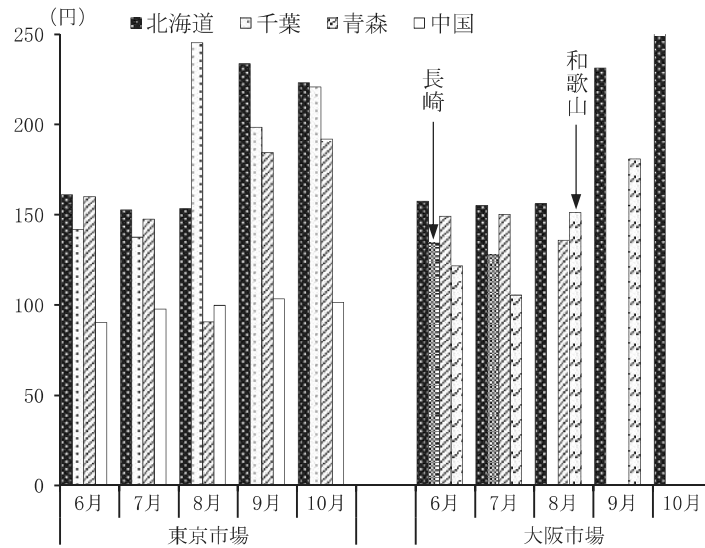
12. 地域別道外出荷量(ホクレン支所別扱い)



13. 主産県の市場占有率(令和5年)



14. 主産県の単価比較(令和5年)



解 説	出荷上の留意事項
<p>① 令和5年の春まきトンネル作型では、は種作業と生育は順調に進み、収穫は6月中旬から始まった。出荷量は例年よりやや少なく、6月下旬以降は降雨によりしみ症状が一部で見られた。春まき作型は一部では種作業が遅れたがその後の生育は順調に進んだ。収穫は7月下旬に始まった。腐敗やしみ症状が見られ製品歩留まりが低下した。晩春まき～初夏まき作型のは種作業は順調に進んだ。高温により根部肥大が緩慢となった。収穫はおおむね順調に進んだが、春まき作型と同様に製品歩留まりが低下した時期があった。また、黒葉枯病、軟腐病は平年よりやや多かった。</p>	<p>① 収穫に当たっては、過熟による裂根の発生に注意する。抽台が発生した場合は事前抜き取りを徹底し、混入を避ける。機械収穫の場合、コンテナやフレコンに入れる際に、打ち傷、押し傷等がつかないように注意する。</p> <p>② 掘り取り後は、直射日光を避け、速やかに洗浄施設で処理する。</p> <p>③ 洗浄水温は8～13℃とし、ブラシ強度、洗浄時間を適切にする。洗浄、選別後は水切りを十分に行い、速やかに保冷库へ搬入する。</p> <p>④ 予冷目標温度は5℃、予冷方式は、真空&gt;冷水&gt;差圧=強制通風の順に適する。</p>
<p>② 近年の作付面積は横ばい～やや減少傾向にある。主産地は十勝、網走、上川などである。</p>	<p>抽台株の断面</p>
<p>③ 道外出荷は、増減の年次変動が大きい。6～7月の出荷量は渡島が多く、8月以降は十勝、後志、網走などの畑作地帯が多い。</p>	<p>裂根</p>
<p>④ 東京市場、大阪市場ともに8～10月にかけて、道産がほぼ独占している。</p>	
<p>⑤ 令和5年の道産の出荷量は前年より少なく、単価は9月以降高値で推移した。</p>	

# 品目毎の基本的な栽培技術体系を掲載

## にんじん栽培技術体系

区分	作型	春まきトンネル	春まき	晩春まき	初夏まき	初夏まき (越年、春掘り)	加工用	
品 種		紅うらら	晩抽天翔	天翔五寸、向陽二号	天翔五寸、向陽二号	紅あかり	カーソン、紅ぞろい	
道 南	は 種 期	3月15日～4月30日	4月20日～30日	5月1日～31日	6月1日～30日	—	5月1日～6月25日	
	収 穫 期	6月25日～7月31日	7月20日～8月15日	8月20日～9月10日	10月1日～31日	—	9月15日～11月10日	
道 央	は 種 期	4月5日～10日	4月20日～30日	5月5日～31日	6月1日～20日	6月20日～7月10日	5月5日～6月25日	
	収 穫 期	7月10日～20日	7月25日～8月20日	9月1日～30日	10月1日～31日	3月20日～4月20日	9月20日～11月10日	
道 東 北	は 種 期	—	4月25日～5月10日	5月10日～31日	6月1日～20日	—	5月10日～6月20日	
	収 穫 期	—	7月25日～8月20日	9月10日～30日	10月1日～31日	—	9月25日～11月5日	
は 種 量 (10 a 当り)		コート種子76,900～102,600粒	コート種子33,300～64,000粒			コート種子57,100～85,700粒	コート種子48,500～55,900粒	
生 育 日 数		90～105日	90～110日	100～110日	120～130日	—	140～160日	
※1 施 肥 量 (kg/10a)	N	12			12	12	基肥12+分施6(は種後50日頃)	
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	15			15	20		
	K <sub>2</sub> O	15			15	15		
栽 植 密 度 (10 a 当り株数)		ベッド幅110cm 6条まき 195×12cm 条間18cm (25,640株)	1条まき 30×8～12cm(27,780～41,670株) 2条まき 70×6～8cm 条間12cm(35,710～47,620株) 4条まき 150×5～6cm 条間30cm(44,440～53,330株)			畝間70cm 2条まき 条間12cm 株間4～6cm (47,620～71,430株)	畝間66cm 2条まき 条間12cm 株間6.5～7.5cm (40,400～46,620株)	
保 温 条 件		トンネル、マルチ	べたがけ		—			
基 準 収 量 /10 a		2,700～3,000kg	2,500～3,000kg	2,500～3,000kg		3,000kg	5,500kg	
品 質 目 標		鮮紅色で尻づまりが良い 一本重 180～250g					青首・腐れ部を除く 割れが深く入っていない 一本重 250g以上	

### 品種特性:生食用 (各社カタログ等および平成20年品種特性調査による)

品 種 名	種 子 元	肥大の 早 晩	抽台の 多 少	首部の 着 色	肩の形	葉軸の 太 さ	根 色		在 性
							肉 部	心 部	
紅 う ら ら	住 化	早	□	○	なで	竹太	○	○	○
向 陽 二 号	タ キ イ	竹早	△	◎	なで	中	○	○	○
天 翔 五 寸	タ キ イ	竹早	△	◎	なで	中	○	○	○
晩 抽 天 翔	タ キ イ	竹早	◎	◎	竹なで	太	◎	◎	○
彩 誉 フ ジ	イ	竹早	△	◎	なで	竹太	◎	◎	○
千 浜 五 寸	横 浜 植 木	竹早	□	○	なで	竹細	○	○	○
紅 あ か り	サ カ タ	中早	△	◎	なで	中	◎	◎	◎
ア ロ マ レ ッ ド	ト ー ホ ク	中早	◎	◎	なで	細	◎	◎	○

注) 抽台の多少、首部の着色:◎(少)～△(多) 根色:◎(濃)～△(淡) 在性:◎(良)～△(劣)

### 加工用にんじんの品種特性 (平成30年指導参考事項)

品 種 名	種 子 元	耐抽台 性*1	抽台率 *1(%)	収 量 性	規格内収 量*2(kg/a)	機械収穫 適性*3	貯 蔵 性	越 冬 性	加 工 適性*4
アンビシャス(標準品種)	朝日アグリ	□	0.0	□	566	□	□	□	□
向陽二号(参考品種)	タ キ イ	×	8.6	△	508	×	×	○	◎
カ ー ソ ン	ベジョー・ジャパン	□	0.0	◎	760	□	□	◎	○
紅 ぞ ろ い	ホクレン	□	0.0	□	553	△	×	◎	◎

注) 評価:◎(極良)、○(良)、□(標準品種並)、△(やや劣)、×(劣)

栽植様式:畝幅66cm、2条まき、条間12cm、株間7.5cm(40,400株/10a) は種方法:3粒点播、間引き

\*1:耐抽台性は発生が多かった2015年の結果を重視し評価した。抽台率は2015年の数値である。

\*2:規格内収量は2015および2016年の平均値である。 \*3:機械収穫適性は2016年のみの評価である。

\*4:加工適性はA社の2ヶ年の結果をもとに評価した。

### 生育温度

- 生育温度3～28℃、適温18～21℃、着色温度16～21℃(カロテン)、高温で根の肥大、着色不良となる。12℃以下でも着色不良となり、3℃以下で肥大停止する。
- 発芽温度8～30℃、適温20～25℃、低温では発芽日数を多く要する(11℃→20日、8℃→30日)。

### べたがけ栽培の注意事項

- べたがけの目的は発芽の促進・斉一化、初期生育の促進および抽台の防止である。
- は種直後に除草剤(土壌処理剤)散布後、ほ場表面に密着させて設置するが、生育に応じて止め金を浮かせていく。
- 高温障害を防ぐために、最高気温25℃以上の時は浮きがけとする。
- 除去のタイミングは本葉6～7葉期で、遅くとも6月下旬までとする。

### 春掘りにんじんの栽培 (平成23年指導参考事項)

- 土壤凍結のない、多雪地帯で栽培する。
- は種期は6月下旬～7月上旬である。
- 肩部が露出すると凍害により腐れが多くなるため、培土をしっかり行う。
- 停滞水は腐れを多くするため、排水性の良いほ場を選定し、排水対策も行う。

※1 施肥量は「北海道施肥ガイド2020」の施肥標準に基づき記載しているが、施肥量決定に当たっては土壌診断に基づく施肥対応を活用する。

※2 現地事例による。